

令和6年度第3回三沢市中小企業振興会議議事録

1. 開催日時 令和7年1月28日(火)
10時00分 開会
11時20分 閉会
2. 開催場所 三沢市役所 本館4階 大会議室
3. 出席者 会長 前田 博 委員 谷内 大介
委員 附田 久志 委員 佐藤 大輔
委員 木村 深 委員 伊与部 久美
委員 濱端 美奈子 委員 久保 弘志
委員 花田 仁 委員 保坂 梨恵
委員 鹿目 寿美子
4. 欠席者 副会長 月舘 学 委員 丹波 一弘
委員 田村 正文 委員 槇 公彦
5. 事務局 産業振興課長 河村 健康 産業振興課課長補佐 古田 輝祈
産業支援係長 松橋 朋子 主 事 若松 賢

6. 開催概要

◎三沢市中小企業振興会議（令和6年度第3回）

- (1) 開会
- (2) 案件
 - (1) 従前施策の検証
 - (2) 現状分析を踏まえた課題抽出
- (3) 閉会

7. 会議概要

発 言 者	内 容
前 田 会 長	<p>案件1ですけども、本件につきましては、前回からの継続審議となっております。</p> <p>昨年末に皆様にアンケート等配ったと思うんですけども、検証評価シートが皆様に渡っているはずですが。</p> <p>事務局の方から結果等を説明してもらいたいと思います。事務局よろしくお願ひいたします。</p>
事 務 局	(事務局より資料に沿って説明)
前 田 会 長	<p>ありがとうございました。</p> <p>検証評価に関してまして、説明がありましたけども、これから皆さんのご意見を伺いたいと思います。</p> <p>それぞれの評価ですけども、ご意見または質問あれば。</p>
事 務 局	<p>補足になりますが、今回の検証評価に際しては、選択項目の他に各自自由意見ということで、記載させていただきました。別の資料2の方に取りまとめておりますが、是非この場で発言していただければ幸いです。</p>
前 田 会 長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ただいま事務局の方からありましたけれども、資料2になりますけれども、皆さんの意見を補足説明してもらえればと思います。</p>
久 保 委 員	項目ごとにやっていくのはどうですか。
前 田 会 長	<p>項目ごとにやっていきますか。</p> <p>若年者地元定着事業に関して皆さんのご意見を伺いたいと思います。</p> <p>(委員から意見無し)</p> <p>後からでも良いですが、次に行きます。</p> <p>UI ターン人材確保事業助成金の件に関しまして、何かありますか。</p>
佐 藤 委 員	<p>この事業というわけではないんですけども、全体的にパッと見た時のご意見で、周知が足りないとの意見がすごく多くて、これはもったいないと思うんですが、周知が足りないのは、どう足りないのかというのは人それぞれ思うと</p>

	ころはあると思うんですけども、どう理解されているんでしょうか。
前田会長	事務局説明をお願いします。
事務局	<p>申し訳ございません。その周知の方法に関してですが、検証評価に基づいて案件2の方で現状分析を踏まえた課題抽出で、周知不足の方を取り上げておりますので、そちらの方でなにが足りないだとか、こういったやり方が望ましいだとか、企業側としてこういったものを求めるかという事を、今後深掘りしていければと考えていただいたところでは。</p> <p>案件1に関しては、いわゆる評価検証、現実の分析という所で留まっております。2でそれをどうするかという風に考えておりました。</p>
前田会長	ということで、案件2で説明するという事。
佐藤委員	それだと今何を言えばよいのかという感じになる気がするのですが。
事務局	先日いただいたアンケートの中で、自由記載欄が非常に狭いスペースだったので、色々皆さんの思いとかあるかと思ひまして、補足で自分の考えを述べていただける機会もあってもいいのかなと考えているところでした。
久保委員	<p>すいません。ちょっと戻りますけども、若年者地元定着事業で、ここの検証にもありますけども、中学生の地元就職に関する意識を醸成するため、市内の企業が各学校を訪問し、企業の特徴や仕事内容、やりがい、及び魅力等を伝え、関心を高めることにより、人材育成と地元定着を図るとあるんですけども、前回の資料でいただいた実績を見る限り、令和4年度参加小学校が1校、令和5年度は無し、令和4年度については、商業高校42人、参加企業6と4団体、令和5年度は同様に47人、5企業と3団体ということで、中学校に関して言えば、ほぼ令和4年度、令和5年度については2年間に1校。</p> <p>具体的な事業内容について、さっき申し上げたとおりのような事業内容であれば、ここに対する載っている補足意見についても、中学生の検討だとか、もろもろ書いていま</p>

	<p>すけども、具体的な所が何もないと、また同じような結果になると思うので、もう少し何をしましょうと、具体的な所を決めてもらってもいいのではないかと思います。</p>
前田会長	<p>事務局お願いします。</p>
事務局	<p>まず、この事業に関しましては、市内の小中学校に企業の皆様を見て、市内にこういった企業があるか、どういったことをやっているかということで、事業者の方に直接赴いてもらって、説明していただいている事業でございます。</p> <p>協力していただいている企業を募ってやっている状況でございます。</p> <p>それで実施件数が少ないことに関しましては、事務局としての運営の仕方もあるかと思いますが、その前にコロナ禍であったということが1点と、どうしても学校と企業との調整が挟まってくるので、長いスパンの中で、予定を組まないと中々学校側も対応できなかつたりだとか、企業側も対応できなかつたとか色々マッチングでうまくいかないことがありますので、その辺は役所としてコーディネート上の課題なのかなと思っておりました。</p> <p>中々、開始時期の折り合いがつかなく、実施出来ないという状況でございます。</p>
前田会長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>私の知っている範囲からすれば、三沢市で中学生とか、小学生は別ですけども、中学生を対象にして、マッチングフェアみたいなのは商工会開催であったり、三沢市建築士会開催であったり、三沢の市内の企業が主催であったりして、年に何回かやっているのは新聞で見たことがあります。ただ、この会でやっているのは新聞では見たことないのが、実情ですね。</p> <p>その他何かないですか。</p>
鹿目委員	<p>若者定着事業だけではなく、全体的に感じたところですけども、やはりこの事業に対して、どこの数字にインパクトを与えるのがゴールなのかみたいな数値目標だったり、一旦の取っ掛かりがない中で評価しているので、中々評価の仕方が難しかったかなというのは、どの事業にも共通し</p>

	<p>と言えることです。</p> <p>例えばですけれども、若者の定着事業でしたら市内の高校生の地元就職率が何%位とか、低下している事も社会的にどうしようもない事だと思うので、人口減少と共に減少率を何割何%に抑えるとか、その辺りの目安があって、この政策が良いのか、悪いのかみたいな評価が初めてできるのかなと感じています。</p> <p>その事業を立てる時に、ある程度定量的な目標、あるいはそれに対して、中学生が効果があるか、小学生が効果があるか、あるいはそれを目前にしている高校生が効果があるのか、高校生にしても1年生、2年生とそれぞれの時期があると思いますので、どの時期が効果的なのかみたいなそういうところまで見ていけると、検証の効果の意味があるんじゃないかなと思います。</p> <p>やはり、中学生で自分の進路を決める子もいれば、高校生になって、高校2年生の間際になって、進学しようか、就職しようかみたいな所を悩んでいる子達、考えている子達が多いかなと思いますので、この若者定着事業に関しましては、高校生まで含めて、あるいは県庁でやっている政策、市でやっている政策、民間、商工会でやっている政策、色々あると思いますので、少し視野を広げた上で、どの施策がどのくらい効果があってと言える、より良いのかなという風に感じました。</p>
前田会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま意見がありましたけれども、事務局としては、踏み込んでね、どうなんでしょうそこら辺。</p>
事務局	<p>確かに、KPIであったり、評価に際しての指標等必要だと思います。評価にあたって何も無い中で、評価をお願いするというのはちょっと心苦しいものがありますが、先程も冒頭お話をさせていただいたのですが、これまでこの会議の運営上、検証評価というのをやって参りませんでしたので、今期から初めてこういう取り組みを入れた所でございます。</p> <p>ある意味過渡期という部分もありますので、今後鹿目委</p>

	員の意見も踏まえて対応して参りたいと考えております。次回から指標なり KPI なり示せるような評価を考えていきたいと思っております。
前 田 会 長	どうもありがとうございました。
附 田 委 員	青森県の方でも、青森人材育成県内定着促進協議会というのを私もこの前参加してきたんですけども、各市町村の方からも参加してなかったでしょうか。
前 田 会 長	どうですか事務局行ってきました、三沢市として
事 務 局	役所の縦割りの問題で非常によろしくないんですが、人口定住移住の方の分野に入っているのかなと思ひまして、政策調整課の方が参画していると理解しております。
附 田 委 員	中小企業同友会として参加しているんですけども、県内大学の学長さんとか、就職担当の先生とか参加しております、宮下知事が中心となってやっていますけども、やはり科学的な分析とかかなり細かくやられていますから、政策産業の方で出れないのであれば、そちらの方の情報をいただいた方がよろしいかと思ひます。かなり細かい分析されています。
前 田 会 長	ちなみに、青森県団体中央会さんは参加してない。
佐 藤 委 員	本部の方で出ています。
前 田 会 長	市の方も縦割り行政と言いましたけれども、その辺多少横の連絡も取って是非参画して述べてもらいたいと思ひます。 その他何かないでしょうか。 次にですね、2 ページ目に移ります。 資格取得支援事業助成金ですけどもこの件に関しまして、助成金が足りないとか、多いとか審査が厳しいとか何か意見があれば。維持すべきは、64%ありますけども。
花 田 委 員	うちの会社もですね、一応これをいただいているんですけどね、先程話したように、周知徹底及び周知方法が中々委員になっているからこそ、今も資格取得の世界と時代なので、委員だからすぐ分かる、それですぐ申請して、役所の方できちっと見てくれて、これじゃ駄目よ、良いよとなってやってくれるんで、非常にありがたいなと思っております。

	<p>した。</p> <p>どのように一般の人達、企業に知らせるかというのを、当然、役所の中に行くとかホームページとか様々あるんでしょうけども、言われてみればあるんだろうけども、やはり最初からそういうのは中々無いんでね。その辺を課題にした方がいいのかなと思っておりました。</p>
前田会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>事務局広報の問題で質問がありました。どういうPRしているかちょっと分からないですけども、その辺どう考えておりましたか。</p>
事務局	<p>これもまた、案件2の方にリンクしてくるんですけども、全てにおいて周知不足の意見が出ておりました。一番多かったところでございます。</p> <p>役所として、活用できる媒体というのはほぼ使っているところではございますが、ただ、新聞に毎戸配布でチラシ配るとかまではやれていないという所でございます。そこは、どこを対象にして、市民でも何かを求めている人はあるかもしれないところですけども、ある意味その事業者向けの事業を行うにあたって、どこまでやるかというのを考えればやれるやり方としては、自分達で活用できる媒体を最大限活用する所に留まっている所でございます。</p> <p>ただ、そこが結果に結びついていないので、これからどこをどう考えていくか意識に来ているのかなと思っておりました。</p>
前田会長	<p>ということは、案件2においても、説明すると思いたすので。</p> <p>その他ないですか。</p> <p>無ければですね、次、起業化支援事業補助金最大上限100万円あります。効果があった86%維持すべきが100%です。この辺お願いしたいと思えます。</p> <p>(委員意見無し)</p> <p>また後であったらお願いします。</p> <p>次に進みます。</p> <p>住宅リフォーム事業費補助金、事業概要書いておりました。</p>

	<p>た。これに関して、私の方から若干説明させていただきます。</p> <p>住宅リフォームですけども、こういうパンフレットがどこまで出しているか分かりませんが、あります。この裏には65社、コロナの前からですけども3年変わってません。ここに書いてある通り、4月1日から3月末まででございます。</p> <p>現在ですね、私調べてきました。そしたら今日現在、4月1日に予算2,300万円出してもらいました。現在残金440万円残っております。2割近く残っております。</p> <p>施策の効果うんぬんとありましたけれども、皆さんに意見を伺いたいと考えております。中には、20万円に戻せという人もいるだろうし、色々あるかと思えます。</p> <p>皆さんどう思いますか。</p>
花 田 委 員	<p>元に戻すというかもっと上げたほうが良いと思う。</p> <p>というのは、一旦、前にも言ったんですけども少ない状態で、誰も手を出さなかったというのがあって、また戻したんですけども、戻すというより、私はもっと極端に言うと15万円出すより30万円でも良いからそうやることによって、お客さんもやりたいという人がいっぱいいるんですよ。</p> <p>補助金どうですかと、もう無くなったと言うと、手を引く、来年やりましょうとやるんだけど、もっともっとお客さんいるのね。</p> <p>そういうのを考えれば、大変でしょうけども、そうやって上げた方がもっと活性化になるというかそんな気がします。</p>
前 田 会 長	<p>そういう意見でございます。</p> <p>事務局の方、この金額に関しますけども、多分3月の議会で正式決定して4月1日から存続する話は聞いていました。ただ、金額等は、3月の議会で決まるはずで。事務局はどう考えていました。</p>
事 務 局	<p>一応令和7年度の予算については、前年同様のスキーム、制度で要求させていただきました。</p> <p>先程議長の方から現時点における予算の残とありました</p>

	<p>けども、例年の推移を見ますと、これから年度末にかけて、結構応募されて予算消化できる傾向にありますので、今年もそれを期待しておりました。</p>
前田会長	<p>そうですか。今花田さんが言ったのは、今日ですけども440万円。</p> <p>実はですね、花田さんがはっきり言わなかったけれども、単価一律20万円という時代もあったんですよ、住宅リフォーム補助金。その節には4月1日から施行されて、時代もあったんですけど、7月に無くなったと、使ってしまった、そういうのが2年位続いたんですよ。なのに、こういう風になったんですよ。</p> <p>どういう訳か役所の問題ですけども、その辺も含めて、まだ金額は分からないですから、15万円が最大になるのか。3月の議会どうなんですかそこら辺。</p>
事務局	<p>現時点における令和7年度の予算要求においては、15万円をベースに予算を考えております。</p> <p>ただ、予算総額の中で、少額で多くの人に使っていただくのか、高額で少なくするのか、という考え方は色々な皆様のお話を聞きながら、対応は可能ですので、対象が減ってもいいから、金額をもうちょっとあげていただきたい、という意見に関しては、耳を傾けて参りたいと考えておりました。予算総額は変えることはできないですけども。</p>
前田会長	<p>2,300万円は変えることは出来ない。</p> <p>花田委員及び附田委員そこら辺の意見を専門家からどうぞ。</p>
附田委員	<p>例えば利用世帯で、一律にするのではなくて、高齢化世帯とか片親とかそういった世帯に対する補助率を上げる、金額を上げて一般の方は10万円に下げるとかそういった工夫も必要なのかなと思います。一番必要とされているところは、やはり福祉的なところですね。</p> <p>色々な物を組合せて、あまりこう持ち出しのお金が無くなるような形として、事業者としては、提案すると仕事もしやすいし、お客さんの方も、持ち出しが無いので、市としても、お金の利用価値はあるのかなと思いますけども。</p>

前田会長	<p>今の意見はですね、一律最大15万円ではなく、世帯、所得によって変えるのも1つの手ではないかという意見でございます。</p>
佐藤委員	<p>いいと思います。介護事業だとか段差無くすだとか。そういったところとか。</p>
事務局	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>本来であれば、予算増額できればいいんですけども、まず、令和7年度においては、前年以上に予算を確保するというのは不可能な状態で、前年並みの中、今いただいたご意見で、障がい者、高齢者のバリアフリー等の話は、福祉の予算もございますので、そちらの方ともよく相談した上で、必要な所に必要な予算を配分、補助できるような仕組みに検討を加えて参りたいと考えております。ありがとうございます。</p>
前田会長	<p>よろしく申し上げます。</p> <p>例えば、今日の東奥日報にも出ていました。住宅リフォームではありませんけれども、市民1人に、3千円の商品券を配る、3月末。但し、灯油、ガソリン等の補助金3,300円は低所得世帯にも配るという新聞に出てました。</p> <p>今の住宅のリフォームの話もその通りだと思いますので、ぜひ検討してもらえれば。</p> <p>その他無いですか。今の件に関しまして。</p> <p>それでは、次、中小企業サポート補助金について、私らの会は中小企業、小規模業者の会議ですけども、この件関しまして、意見をお願いしたいと思います。これは補助対象の2分の1、限度額が20万円ということでした。特に、利用した方と言え失礼ですけど、意見言っていたらありがたいなあと思います。</p>
久保委員	<p>これは凄いい内容的には良いものだと思いますけども、やっぱりこれ、前回の会議でも触れましたけども、色々アピールの具合というんですかね、情報誌だとか、広告だとか、サイトの利用だとか、そういう所を全面的に出していかないと、中々増えない。</p> <p>確か、令和5年度で1件だというデータを貰ってるんで</p>

	<p>すけども、やっぱ1件ということであれば、全然ほぼほぼ浸透していないと言わざるを得ないと思います。</p>
前田会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>資料2でも討論したいと思います。</p> <p>私の知っている範囲では、三沢市市民だより等で、中々中小企業振興会議の内容が載らないんですね。この話するのは失礼だけだね。そういう所も含めまして、案件2の方でやっていきたいと思います。</p> <p>後は何かありますか。この件に関しまして。</p> <p>それではですね、議題1の方でございますけども、検証と課題抽出に関しまして、最後の4ページになりますけども、総合的に何か無いでしょうか。</p>
久保委員	<p>自分で調べて確認したいなというのが1つあって、東京圏だとか、県外からの移住の支援というのは、県とか三沢市でもあるんですけども、ちょっと確認したいのが、東京圏ではなく、三沢市外から移住してきて、例えば、単純に引越してではなく、移住してきて住宅を取得した場合には、例の住宅取得支援事業助成金というのはあるんですけども、六ヶ所、野辺地から三沢に移住してきて、中古住宅、新築を建てて、その支援金の中に加算額があって、県内の市外から来ると、いくらかプラスされるんですけども、そこをもうちょっとプラスの額を大きくするなどして、今言った近郊の市町村から三沢市に来て、家を建てる、または住宅を取得する場合に、他よりも助成金が多くでるぞと。</p> <p>仮にやると、引っ張り合いだとか、取り合いだとか、クレームとか来たりするんですか。周辺の市町村から。</p>
前田会長	<p>事務局今の説明大体分かりますよね。この議題とはちょっと違うんですけども。</p>
事務局	<p>申し訳ございません。住宅取得支援事業に関しましては、現在、政策調整課で実施している事業でございます。今後中小企業問題にも深く関わってくるものだと認識しておりますけれども、そういった周りとの差をつけることによってクレームが来てるかどうかまでは、私共で承知してはおりませんでした。申し訳ございません。</p>

久保委員	いえいえ。そういうちょっと加算してね、内容はご存じだと思っんですけれども、三沢独自の移住に関しては、他市町村から来た場合には、三沢ならではの特徴を出せばいいなと思っていたものですから
事務局	後でお知らせして、別に回答いたします。他の近隣市町村から差を設けれるかということ。
久保委員	実際このあいだ貰った資料のチラシにはありますよね・内容については、県内からの転入プラス50万円とあるんですけれども、50万をもうちょっと
事務局	後ほど、調べた上でお答えさせていただきます。
前田会長	その他何かありませんか。案件1について。 無いようであれば、一旦ここで締めさせて2を改めてやりますので、その他もありますので、その都度意見を伺いたいと思います。 続いて、案件2でございます。現状分析を踏まえた課題抽出であります。まず、事務局説明をお願いします。
事務局	(事務局より資料に沿って説明)
前田会長	ありがとうございました。色々6つの取りまとめ補足意見等を例規しておりますけど、これに対しまして、皆さんの意見等を伺いたいと思います。まず、私の方から指名させていただきます。商工会の谷内委員から。
谷内委員	起業化支援事業費補助金についてだったんですけれども、令和5年度、年度当初に結構集まって、商工会の方で申請書類の作成のお手伝いをさせていただくこととかあるんですけれども、当初の予算に対して、結構申し込みたいという相談が令和5年度当初はあってですね、対応させていただいたところなんですけれども、令和6年度になったところ、条件が結構5年度までは、優しい条件で助成金の要綱上なっていたところをですね、令和6年度から結構申請に条件がついたりとかしてたところもあってですね、ちょっと減ったのかなというところもあるんですけれども、ちなみに令和6年度は予算に対して、どのくらい申込があったのか教えてもらっても良いですか。
前田会長	事務局分かっている範囲で教えてください。

事務局	令和6年度予算額800万円に対して、全て申請許可済みでございます。
谷内委員	<p>分かりました。</p> <p>申込相談自体はあって、利用されたという事なんですけども、周知不足、今話題に上がっている所ではあったんですけども、起業化支援事業費補助金については、商工会にもですね、商売始めれば100万円貰えるんでしょう、とそんな端的な情報で連絡が来たりだとかして、そういう分かりやすい入口があると、勝手に口コミで広がって業者が増える面もあったりするので、制度上、ちょっと複雑だったり、ここがポイントだよ、みたいなのが分かりづらかったりすると、やっぱり周知をしてても、入りづらい所も多少あるのかなという所もあって、プッシュするポイントを分かりやすく宣伝していくというのも、周知するという上では非常に重要なのかなとは思っていたところでした。</p>
前田会長	ありがとうございます。続いて、佐藤委員
佐藤委員	<p>周知の話ですけども、中央会もですね、中小企業省力化投資補助金という補助金やってるんですけども、誰にも使われていない補助金がありまして、これ中小企業庁から来てるんですが、中小企業庁は、全国の中央会の周知が足りないという事で、怒ってるんですけども、私達からすると補助金が使いにくいという事で、令和6年度の補正で、ものづくり補助金がスタートしますし、周知はやるんですけども、そういった立場なのでアドバイスはできないのですが、私達の周知は対象となる所に行き、事例を交えて喋る。</p> <p>ものづくり補助金ありますよと言っても、どう使えばいいか分からないので、例えば、食品関係であれば、スチームコンベクションオーブンが対象ですよ、とかですね話をして喋ります。</p> <p>後は、商工会さんとかですね、保証協会さんと、横の機関と連携して必ず周知しますし、対象となる所の会合、例えば、通常総会、懇親会でも時間あればそこに行き足しげく行って説明するという事をやっています。</p>

	<p>谷内委員から先程あった起業化支援とか住宅リフォームとか自由意見を見ると、周知については全く書かれていなくて、やっぱりこれは対象がはっきりとしているので、例えばリフォームに関しては、リフォーム業者さんにチラシを置いておけば、使われるはずですし、起業化も商工会さんにチラシを置けば使われるなので、全ての事業に関しての対象がはっきりしていることと、三沢市さんの狙いがはっきりしていればいいのかなど。</p> <p>先程住宅リフォームを附田委員の方で、例えば、高齢者だとかというのもありましたけれども、行政として、リフォームの補助金を出す狙いが、私はなんなんだろうなと思っていて、建設業者さんとか市民がお金貰っていいなとは思うんですけど、行政の人はそのお金を出すことで、何に引っ張っていくのかなと、私は良く分からなかったんですけども、附田委員の意見で、例えば高齢者に対してやるとなると、高齢者が住みよい、そういった人達に対する事業も拡大していきますよということで税収が上がります、という狙いがあると思うんですけども、全ての事業において三沢市さんが狙いがどこにあるのか分かれば、その狙いの所に、チラシを置けばいいのかなどという感じもしますし、周知に関しては私はそういう意見があります。</p>
前 田 会 長	<p>どうもありがとうございました。伊与部委員お願いします。</p>
伊 与 部 委 員	<p>保証協会なんですけども、保証協会の関係から行くと、起業化の支援事業の補助金の所で着目せざるを得ないというか、そこをお話させていただく形になるんですが、補助金を活用される方がいらっしゃるという事で、やっぱり事業者さんにとってはとても良い補助金の制度だな、という風に思います。</p> <p>ただやっぱり、創業というか起業化される経営者の方々って、見たり聞いたりするんですけど、意外と相談できる所が無い、孤独だ、とかちょっと見たりする事もありまして、創業されてからもフォローアップという点で、うちの方でも創業の相談窓口を活用された方に、1年後フォロー</p>

	<p>アップどうですか、という感じで企業訪問に行かせてもらったりしてるんですけども、そういった中で企業さんの悩みとか、相談とか聞いたりして、そこから連携できる何かしらのサポートやっけていきながら、事業を継続してもらおう、というところで支援をやっておりまして、そういった関係からも、できるできないはあるかと思うんですが、サポート体制を充実していただくというのも一つかなと個人的に考えていたところですよ。</p>
前田会長	<p>ありがとうございます。久保委員お願いします。</p>
久保委員	<p>大体気が付くところは、意見提案させていただいたものんですけど、ちょっと中小企業に関して言うと、繰り返しになるかもしれないんですけど、中小企業にとって、生産性を上げるだとか、DX改革を行うだとか、人材を確保するだとか、という風な議題について、具体的にどうすればいいの、というところが多いと思うんですね。</p> <p>そういうその、相談なり支援をこういう制度の紹介なり、そういう所を含めて、丁寧な支援が企業に対してできればいいなという風には感じておりました。</p>
前田会長	<p>ありがとうございます。保坂委員お願いします。</p>
保坂委員	<p>この課題抽出の方から、やはり周知方法の不足というのが課題だという風に挙げてますけど、ここでちょっと私のもう1個の青森シャモロックの事例をお話しますと、中小企業サポート補助金、多分使えば凄く効果がありそうな補助金なのかなとこの立場で見れば分かるんですけど、この手の補助金って、すでにもうご用件で出たとおり、実際に何が使えるだとか、私たちが使えるのかどうか、そういったところというのは不明で、中々手が出ないという所があるので、やはり特に中小企業サポート補助金をもし執行率を上げるとするならば、やはりある程度のやらせではなないんですけど、ある程度協力的な企業さんに何社か捕まえて、実際に使ってみる、で、使ったどうかという所の事例をどんどんチラシとかに載せていくと、知らない企業さんも自分でも使ってみようかなという風なイメージが付きやすいなと。</p>

	<p>実際、シャモロックの会社がある五戸町では役場の職員さんが、何年にこういった事が決まってるよ、つきましては、もしこういう課題をお持ちだったら、テストモデルとしてやってみませんか、というのを直々に依頼に来たりとかという事もあるので、多少最初の事例作りをする上では、市内企業の何社かにあらかじめ声をかけてしまうというのも1つの手かなと。</p> <p>そうすれば、後は企業の経営者同士で、あの補助金使い勝手がいいよとかとなれば、ロコミとかで広がりますので、そういった事も周知方法の1つだとは思いますが、そういう形でロコミを使うというのも、大きな周知方法かなと思っております。</p>
前 田 会 長	ありがとうございます。附田委員お願いします。
附 田 委 員	<p>皆さんから周知方法についてのご意見出されてますけど、あまり面倒くさく考える必要が無く、例えば、事業者であれば、商工会さんの総会あるいは総代会で沢山の人が集まる訳で、誰かが説明すれば良いだけの話かな。</p> <p>例えば、委員長は必ず出るわけですから、その時に時間を貰って、お話しするとか、やはり人手不足というのは事業所において共通の課題になってきますので、それぞれの事業所というよりは団体というんですかね、そういった部分を上手く使われた方が良いのではと思っております。</p> <p>私は建設業協会ですけども、毎月1回定例会があるので、そこで全会員周知というのは難しい事では無いので、そういうな方法も良いのかなと思いました。</p>
前 田 会 長	ありがとうございます。木村委員お願いします。
木 村 委 員	<p>皆さんの方から色々ご意見がありましたけれども、やはり、今までも当然、三沢市でも色々な方法で周知をされてるかと思えます。</p> <p>やはり、実際使われる方がこれを見て分かりやすいかどうかというのは、ちょっとという部分があるのかなと思えますので、やはり細かい具体的な例とかも示しながらやっていただければ、こういうのも対象になるのかな、これは対象にならないのかなとか、そういった部分で色々な質問</p>

	<p>が出てきたり、そういった部分が出てくるのかなという風に思いますので、そういう具体的な例を出していったほうがいいのかという風に思います。</p>
前田会長	<p>ありがとうございました。濱端委員お願いします。</p>
濱端委員	<p>私がちょっとお話できるのは、教育とか学校の所になるんですけども、前にも3年生の進路希望で、4割が就職で6割が進学を希望しておりますとお話をしましたけども、今、進学、これから試験のある3人を除いては全て進路が決まっております、例えば、就職ですけども、48名就職公務員を含めて、今回進路が決まっております。</p> <p>公務員は、県の職員あるいは、地区内の役所に決まっている子もいますし、後は県内企業と県外企業の比率ですが、県内就職41名で、県外が5名です。</p> <p>実は、私の夫もこの地区の高等学校で進路指導を担当していますが、近隣の学校も同様に、コロナの辺りから特にそうなんです、地元で働きたいと、本人も親御さんもそういう傾向が非常に今強いんですね。三沢市内だけではないんですけども、県内の就職が大半を占めて41名というような状況です。</p> <p>高等学校に関しては、意外と企業を知る、あるいは職業の体験とか、県の知事部局でも教育委員会でも色々用意されていまして、そういうチャンスが沢山あるんですけども、やっぱり小学校、中学校と中々無いのかなと思って、中学校さんでは、三沢市内確かインターンシップとかなさっているようなんですが、その辺の教育委員会さんの事業とちょっとタイアップとか、そういうのも考えられるのかなという事と、後、学校の行事って大体次年度の事を決め始めるのが、後期に入って12月あたりからでその早い段階で、お話が進むと、踏み込んで進めることができるのかなというのもちょっと考えながら、せつかく地元で働きたいという子供達が多い傾向の中で、小学校や中学校の段階で地元の色々な職業であるとか、企業を知るというチャンスというのはとても大事だと思うので、引き続きお願いしたいなと思いました。</p>

前田会長	ありがとうございました。花田委員お願いします。
花田委員	<p>今、濱端委員から地元の希望が多いというのがあったんですけど、たまたま商業さんに行った時、同じような話をされて、その割には来ないなと思いながら、待ってたんですけども、でもやっぱり子供達に選ばれる企業でありたいなと思うんだけど、そのためにもやはりさっき言った中学生とか色んな体験の事を市内でもやってるんですけども、ただ、やったやっただけではなくて、その出口に迎えるような、そんな事が継続でできればいいのかな、という風に思っておりました。</p> <p>後、さっきも周知方法がなっていないと自分で言いながらも皆さんの話を聞きながら、反省しなきゃならないんですけど、我々もやっぱりもう極端に言うと、建設業だと年に1回の安全大会というのが60社70社位みんな集まってもらって、色んな安全に関する事とかやるんだけど、その中での話なんかでも、十分に伝えようと思えばできるなという風な事、あとそれと現場単位で月1回の安全協議会なんていうのも20社位集めてやるんだけど、それでも色々な方法で、色々あるなという風にして反省したところがございます。その辺はまた今後、やっていきたいと思います。</p> <p>最後に1つ違う質問なんですけど、青森の定住促進何とかがあってありますよね、県の奴。あれは市単独ではないんですよね。先日、うちの会社の社員が担当課のどなたか分からないけど、色んな相談を受けて東京から一家で移り住んで我が社にきたものだから、お前貰えるぞ、6歳の子供いるからプラス100万円で200万円貰えるぞ、と本人をぬか喜びさせて、その気になって、色々やったんですけど、担当課の方のこれだとちょっとまずいからこうしましょうああしましょうと色んな事やってくれたんですね。</p> <p>極端に言うと、東京に7年か8年いたんですよね、でも、その証明が中々難しかったり、そういうのがあって、結果的には却下された。</p> <p>最後にジョブカフェ青森でしたっけ、我が社も5年位前に登録してたんですけど、古いやつを持って来たんですけど</p>

	<p>も、実質言うとその後うちの会社で登録してなかったものだからそれも駄目だとか、その辺でちょっと何とかならなかったのかなと思いつつも、悔しい思いをしていたんですけども、できれば市の方でも色々な事も考えてくれればいいのかと思っておりました。最後に関係無い話で申し訳ございません。</p>
前田会長	<p>ありがとうございました。鹿目委員お願いします。</p>
鹿目委員	<p>出揃ってらっしゃるので、同意見も多いんですけど、各事業の周知に関しましては、おっしゃるとおり必要な事業者に適宜届けばいいのかという風に思いますので、附田委員のおっしゃったとおりに商工会の場を活用するだとか、私青年部の方に所属しているんですけど、青年部も年に何回か集まっておりますので、商工会は、経営者の方が集まっている事が多いかなと思いますし、青年部は、経営者の方もそうですけど、企業の中堅クラスの面々も揃っていますので、実務を動かしていく世代が入っている部分もあるのかなという風に思います。</p> <p>ですので、こういった年度の事業の説明とか事例とかというのを、商工会あるいは青年部とかを使って刻周知していくのが1つなのかなと感じています。</p> <p>チラシはいただいているんですけど郵送で、なんですけど、サラサラと見て流しちゃうところがありますので、それを活用という点に落とし込むという所までできると、そんなにわざわざ新聞広告とかチラシ入れてとかお金をかけなくても、できる部分も沢山あるんじゃないかなと思っておりました。</p> <p>後は、若年者地元定着事業に関してお話させていただくと、先生から地元、県の就職が多いという事だったので、そうすると1つの観点として、大学で流出した子達をいかに戻してくるかという視点も大事なんじゃないかなという風に考えます。</p> <p>4年間外に出てしまうと、三沢に戻ってくるあるいは自分のスキルを活かせる企業が少ないなとか、給料に見合わないなという風にどうしても視野が広がってしまうので、</p>

	<p>そういった点で初任給とか、学生とか特に高校生最初に見ると思うので、初任給を上げてくというのが凄く大変だなという風に同じ仕事をしていても、やっぱり初任給上げてかないといけないし、企業側の悩みもあると思いますので、そういった小学生、中学生、高校生、大学生まで視野を広げられると、あるいは検討の土俵に上げられるといいのかなという風に感じています。</p> <p>あと、すみません、もう1点。起業化支援ですけども、これも意見出てましたけれども、起業して軌道に乗るまで、あるいは乗ってさらに規模拡大とか事業拡大という点で、やっぱり模索する。</p> <p>私自身もそうですし、3年の壁を乗り越えました、こっからどうしようか、維持では、どうしても難しい時代になってくるので、どう事業規模を拡大するのか、というのが自分自身も凄い大きな課題として、日々捉えていますので、今の事業を大きくしていくのか、あるいは違う事業を会社の中にくっつけて拡大させていくのかとかその辺、孤独との戦い、もちろん従業員と相談はしますが、どう会社を持っていくのか、経営者の1つの方針を示していかないといけない所なので、やっぱり適格な相談が出来て事業規模拡大するならこんな感じとか、M&A考えましょうとか、銀行さんじゃない相談口というか、そういった所があると、またちょっと違うのかなと思いますので、軌道に乗せる、拡大するというケースの違いでの相談、サポートというのももしかしたら100万円投資したものに対して、回収という点で考えると、1つ大事なのかなという風には感じました。</p>
前 田 会 長	<p>ありがとうございました。今日出席している皆様方から色んな意見が出ました。それではですね、事務局から皆様の意見を色々聞いたと思うんですけど、今後について</p>
事 務 局	<p>様々な意見ありがとうございます。今期の会議のスケジュールですが、今回は施策の検証を踏まえた課題抽出という事で、いままさに課題について議論されていました。</p> <p>次の第4回も引き続き課題の抽出をした上で、その課題</p>

	<p>の改善策、こちらを次の会議で考えていきたいと思っておりました。本日出席されていない議員もおられますし、また次の会議も、効率的に進める意味からも、会議と会議の間ですね、委員の皆様のご知見を最大限に活用させていただきたいですので、また、書面により、ご意見等いただければという風に考えておりました。</p> <p>今回私が事務局として、課題抽出したこの4ページ目の課題に関して、それ以外にも委員の皆様が感じたことがあれば、それ以外でもよろしいですので、これに対する改善策とかヒントとか何かいただければと考えておりましたので、もしよろしければ文書等発送させていただきたいと考えております。よろしくお願いいたします。</p>
前田会長	<p>ありがとうございます。皆さんの意見に対しまして、まだまだ100%の答えにはなっていないかとは思いますが、事務局もこれからですね、私の意見ですけど、縦割り行政ではなく、色々な被る部分がありますので、横の連絡をとったり、商工会も来てますし、商工会さんがやっていることと、今日の6つの課題は被る部分があるかと思えます。</p> <p>先程、附田委員も言いましたけど、各委員会もあるんで、団体もあるんで、そういう所にですね、もし出頭要請あって説明してくれ、と言ったら行ける可能性はありますか。</p>
事務局	是非、参加させていただければ
前田会長	<p>できるわけですね。それを最大限皆さんも利用していただければと思います。</p> <p>それではですね、その他何か意見あればぜひ伺いたいと思います。何かないでしょうか。附田委員何か。</p>
附田委員	<p>中小企業同友会から来てますので、PRも含めてちょっとお話したいのですが、6月6日に東京で中小企業サミットというのを開催します。これ何をやるのかというと、47都道府県の中小企業家が集まって、地元の大学生に地方の事を色々説明する、一応花田委員と行く予定だったんですけど、そこでUターンというんですかIターンというんですか、希望のある学生さんに対して、自社のPRというより</p>

	<p>は、地元の PR というんですかね、そういったことをやって参ります。</p> <p>やはり東京都は、地方から人を供給し続けてもらって、何も恩返ししてもらえない、子供の出生率が一番低い所に人が一番集まっているので、人口が増えるわけがないので、是非とも東京都から人間を搾取するような活動を全ての地方自治体は行うべきだと思いますし、やはりそういうことで日本全体が良くなるのかなと地方自治の使命だと思いますので、各企業、各団体も活動すべきだと思っておりました。</p>
前田会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>人口減少とか色々ありますけど、特に青森県三沢市ですね、決して人口を維持している訳ではありません。減っております。</p> <p>その話になりますけども実は私の体験で、8ヶ月入院していた時の話で、看護婦さんの見習いが2人私をサポートしてくれていましたが、青森県立保健大学に入っており、看護婦さんに就職決まってるんですかと聞いたら、2人とも東京、関東方面に就職しますと。大学の学費はと聞いたら、県の方の補助金をやっていますと。その補助元、県民税払っている皆さんですよ。ちょっと文句言いたくなって、必ず帰ってこいよと言ったら、条件を整えば帰ってきますと言っていました。</p> <p>そういう状況で附田委員がいったとおり、皆さんもですね、是非、この問題、大きな問題ですので、事務局共々これを中小企業振興条例というのは大事ですので、是非、これからも、皆さん協力して、誘致して下さるよう私からも切にお願いいたします。その他、後何かないですか。</p>
久保委員	<p>今のお話は、本当笑い事じゃなくて、若い女性の流出というのが、三沢市も2045年で2万7千人、あの若い女性を何とか引き留める、そういう町づくり、町全体にしていかないと、三沢もまずいかなという風には思います。</p>
前田会長	<p>只今久保委員から大きなテーマで若い女の子、男の子でも定住できるような何か施策しないとますます減るよと事</p>

	<p>務局共々行政含めて今、考えていると思いますけど、強く強く考えていきましょう。その他何かありますか。</p>
濱 端 委 員	<p>大学で一旦外に出た人達が戻ってくるという事で、先日本校で1、2年生の生徒に3年生が進路が決まった子達が、それぞれの進路が決まった事と、将来的にどうしたいかという事を後輩たちにお話をする機会があったんですが、大半実は4年制大学に行くと言っている男子も女子も学んだことを活かして、また地元で是非、お仕事をしたい事を話している子が多かったんですね。</p> <p>この子達が戻ってきて、仕事ができる場が地元にあるといいなど、皆様からそういうお話が出ていましたので、ちょっと、こちらも卒業させて出発させる時に、最後その大学で学んだ後のこちらに戻ってくるまで、私もちょっと考えながら進路指導をしていきたいなど皆様のお話を伺って思いました。</p> <p>すいません。ちょっと感想みたいなお話で。</p>
前 田 会 長	<p>よろしく今後とも子供達によろしくお願いいたします。子供達は大きな力を持っていますのでね、その他何かないでしょうか。</p>
鹿 目 委 員	<p>今、先生のお話のつながりという事なんですけども、やっぱり自分のスキルを活かしたい所があると思うので、できればサポートしたいと思うんですけど、やっぱり、いざ就職するとなった時に、首都圏の賃金とこっちの賃金、あるいはスキルを活かせるのか必ず比較になった時、中々勝てるという、自分も含めてなんですけど、関東の企業に勝てるという自信がまだまだ自分自身持てないなあという所が凄くあります。</p> <p>高卒の子で働いている1年目の子達とお話することがあって、この間言っていたのが、生活がきついと、一人暮らししてしまうと、初任給19万円とか書いてあっても、色々引かれて、さらに来年からは市民税も引かれるんですよみたいな話で、手元に残るのが15万円、家賃4万円、水道光熱費、携帯、色々引いていくと、手元に残るのは、3万円しか残らないんです、みたいな。</p>

	<p>それがリアルなので、本当に答えは無いんですけど、うまく皆さんの生活水準を上げてあげる点をいうと、まだまだ課題は多いのかなと我々企業側も頑張らないといけないところがあるのかなと。</p> <p>ただ、その中でも、先生がおっしゃったとおり、それでもいいから働きたいという子って絶対いると思う。その子達を逃さないといった施策が大事なのかなと思います。</p> <p>小さな流れかも知れないんですけど、結果大きな波につながると思いますので、やっぱりこの大学生という観点は、ちょっと強化していきたいなという風には個人的には考えております。</p>
前 田 会 長	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>特に私ら中小企業、小規模事業者というのは、全産業で99.7%です。0.3%しかいわゆる、大手というのは無いわけですし、特に三沢市の場合は、ほとんど中小、小規模行政ですので、スキルとかの問題で、是非三沢市にも若者が定着するように、皆さんと共に、知恵を絞ってやっていかなければと思いますし、事務局の方も是非、これは最大限努力してもらいたいと思います。その他無いですか。</p> <p>無いようであれば、これで今日の会議を一応全て終了しますけど、協力ありがとうございました。今後ともですね、今度は第4回やりたいと思います。まだ、日程は決まっていないですよ。多分、今年の何月位になるとは思いますか、概算で良いので、</p>
事 務 局	3月か4月かちょっと年度超えるか
前 田 会 長	<p>その時は是非皆さんごぞって出席して下さいようお願い申し上げます、本日はこれで第3回の中小企業振興会議を閉じさせていただきます。本当にどうもありがとうございました。</p>